



TITLE:

## <Chapter. 6>中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析

AUTHOR(S):

河瀬, 彰宏

---

CITATION:

河瀬, 彰宏. <Chapter. 6>中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析. CIRAS discussion paper No.72 : 日本民謡の地域比較研究に向けて --西海道・山陰道・山陽道の地域性 2017, 72: 29-38

ISSUE DATE:

2017-03

URL:

[https://doi.org/10.14989/CIRASDP\\_72\\_29](https://doi.org/10.14989/CIRASDP_72_29)

RIGHT:

© Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

## Chapter. 6

# 中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析

河瀬 彰宏

### 1. 中国地方の令制国

中国地方(山陰道・山陽道)の民謡の計量分析では、『日本民謡大観 中国編』(NHK 1969)に掲載されている中国地方の全楽曲を対象とした。図6.1は、九州地方を令制国(旧国名)に分けた地図である。

以下では、中国地方の12ヵ国について使用楽曲に関する基本統計量、楽曲中の音高の出現頻度、音程の出現頻度、小泉文夫氏の4種×6パターンのテトラコルドを形成するbigramの出現頻度、東川清一氏の4種×5旋法の音階の出現頻度を報告する。

### 2. 使用楽曲の基本統計量

表6.1に地域ごとの楽曲数に関する基本統計量を

まとめる。中国地方では、1曲あたりの音数は、石見国、因幡国、出雲国の順に多く、備前国、長門国、備中国の順に少ないことがわかる。また、統計的なばらつき具合を考慮すると、石見国と周防国における楽曲数の多様性が目立つ。一方で、1曲あたりの音高の持続時間(音高に音価を掛けた量)は、備後国が圧倒的に長く、安芸国、伯耆国と続き、隠岐国、長門国、美作国の順に短いことがわかる。統計的なばらつき具合を考慮すると、音数の場合と異なり、安芸国の多様性が特出している。

### 3. 音高の集計結果

図6.2から図6.13は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音高情報を集計したヒストグラムである。また、図6.14は、中国地方の全楽曲の音高情報の集計結果である。

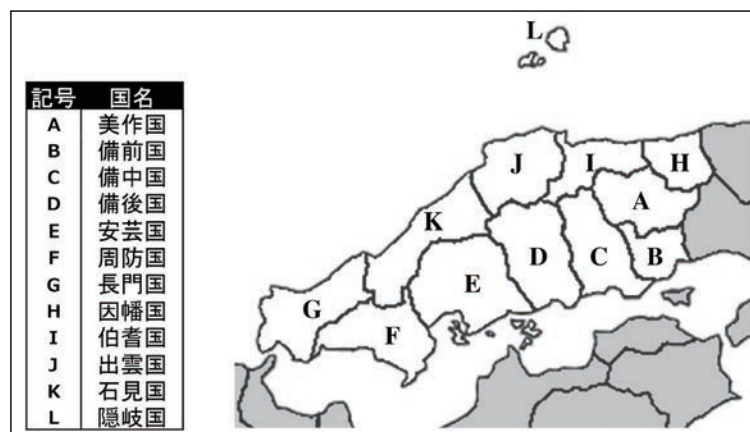


図6.1 中国地方における令制国

表6.1 中国地方の各国の基本統計量

	美作	備前	備中	備後	安芸	周防	長門	因幡	伯耆	出雲	石見	隠岐	全体
曲数	47	29	89	113	188	85	53	61	66	48	92	15	886
合計	4,390	2,290	8,262	12,305	19,459	9,708	4,761	7,655	6,645	5,733	12,446	1,500	95,154
平均	93.40	78.97	92.83	108.89	103.51	114.21	89.83	125.49	100.68	119.44	135.28	100.00	107.40
s.d.	62.22	64.33	79.64	76.42	81.65	102.78	59.66	86.33	58.20	87.36	127.50	53.33	86.48
CV	0.67	0.81	0.86	0.70	0.79	0.90	0.66	0.69	0.58	0.73	0.94	0.53	0.81
合計	13,983	11,186	35,429	91,650	114,032	39,609	14,851	26,957	35,212	25,209	47,552	3,908	459,578
平均	297.51	385.72	398.08	811.06	606.55	465.99	280.21	441.92	533.52	525.19	516.87	260.53	518.71
s.d.	293.39	591.38	444.78	2553.69	2846.27	958.93	255.08	346.77	1084.22	1212.89	697.02	153.63	1711.00
CV	0.99	1.53	1.12	3.15	4.69	2.06	0.91	0.78	2.03	2.31	1.35	0.59	3.30

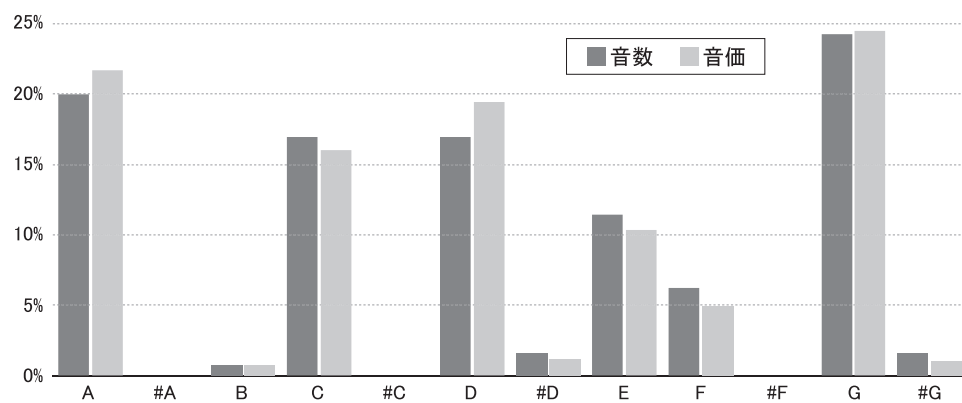


図6.2 美作国における音高の使用傾向

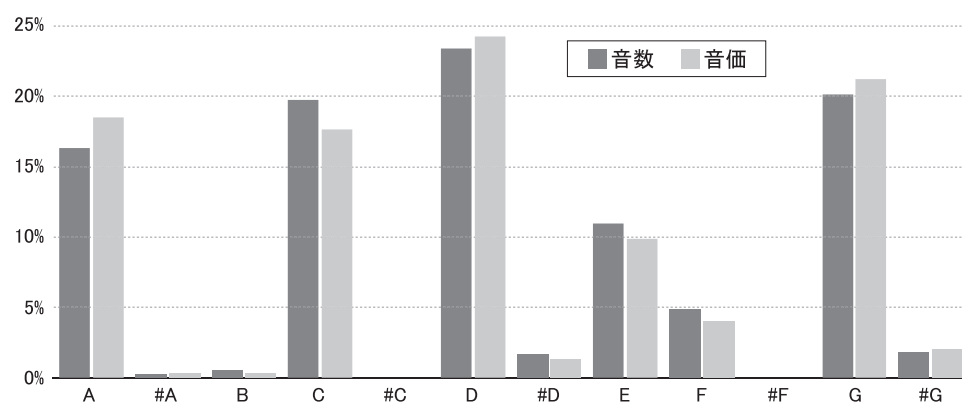


図6.3 備前国における音高の使用傾向

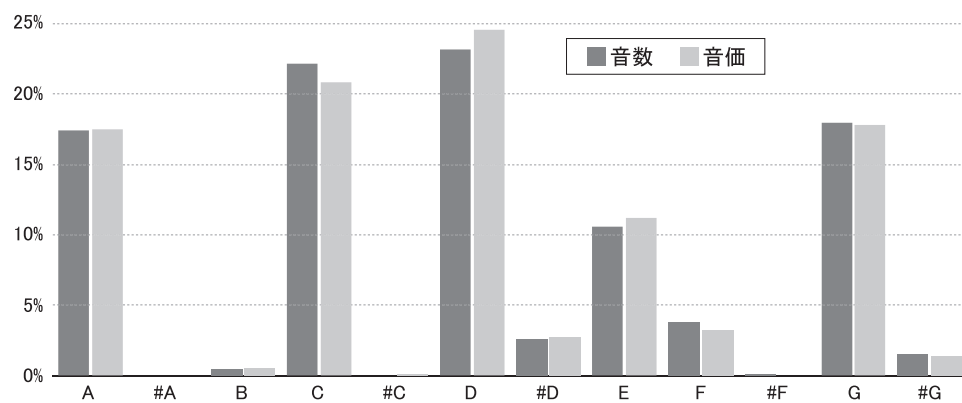


図6.4 備中国における音高の使用傾向

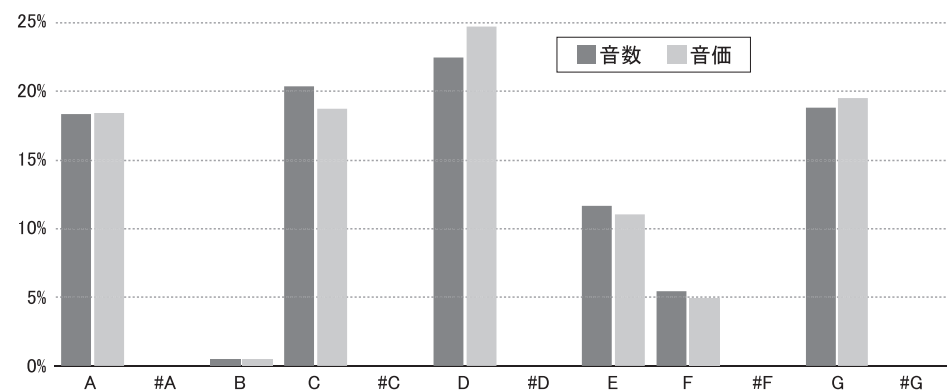


図6.5 備後国における音高の使用傾向

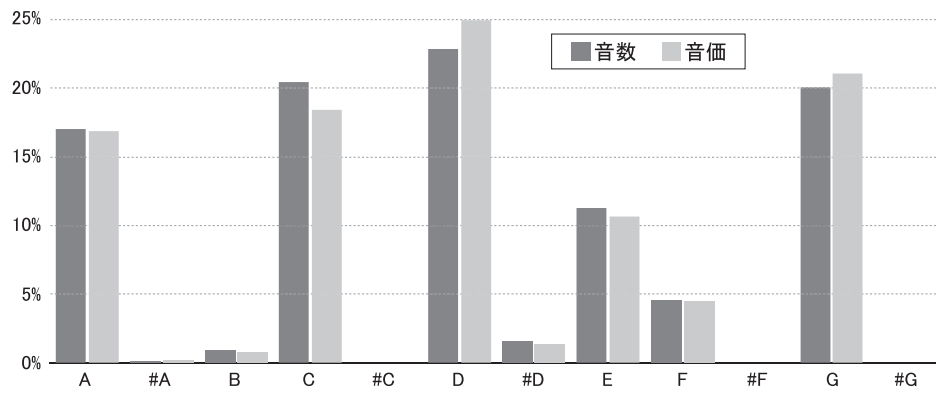


図6.6 安芸国における音高の使用傾向

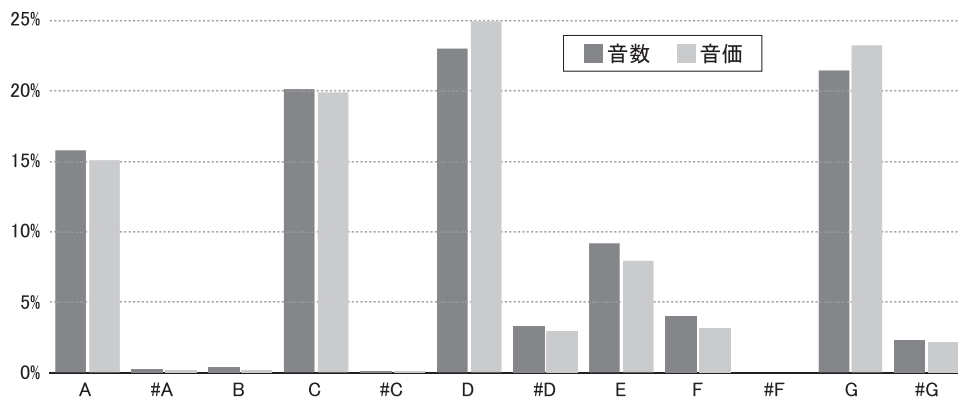


図6.7 周防国における音高の使用傾向

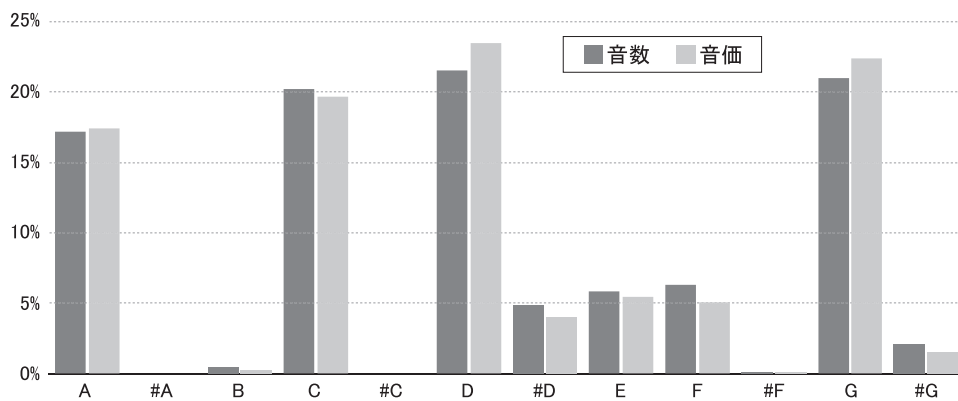


図6.8 長門国における音高の使用傾向

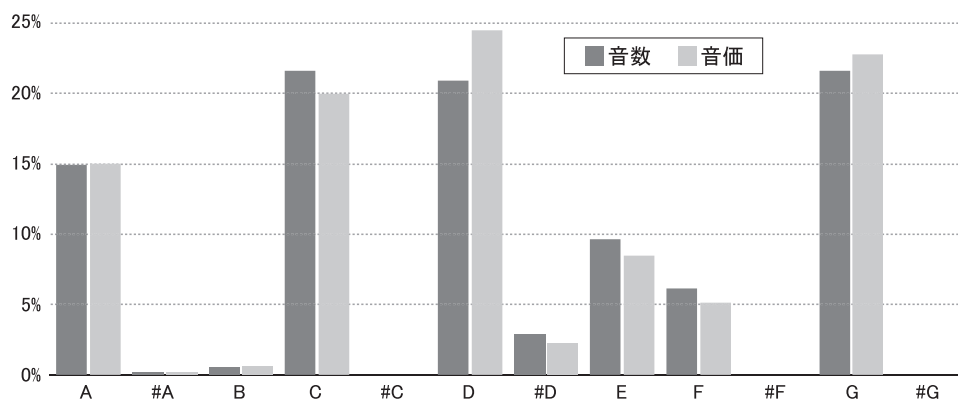


図6.9 因幡国における音高の使用傾向

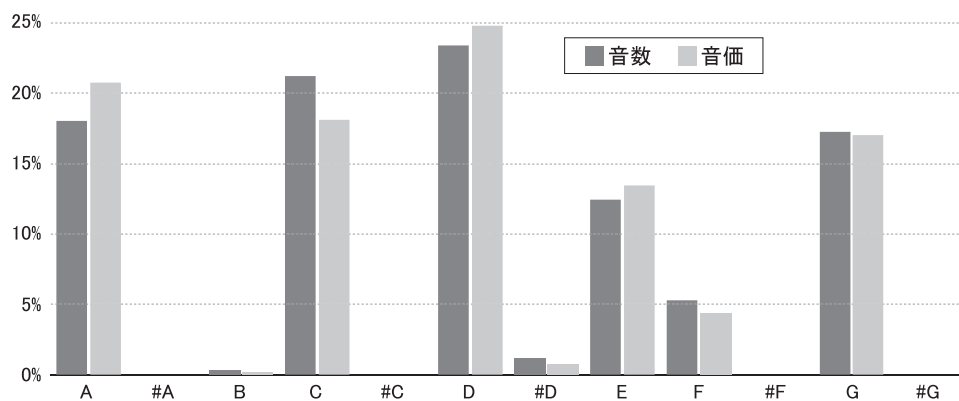


図6.10 伯耆国における音高の使用傾向

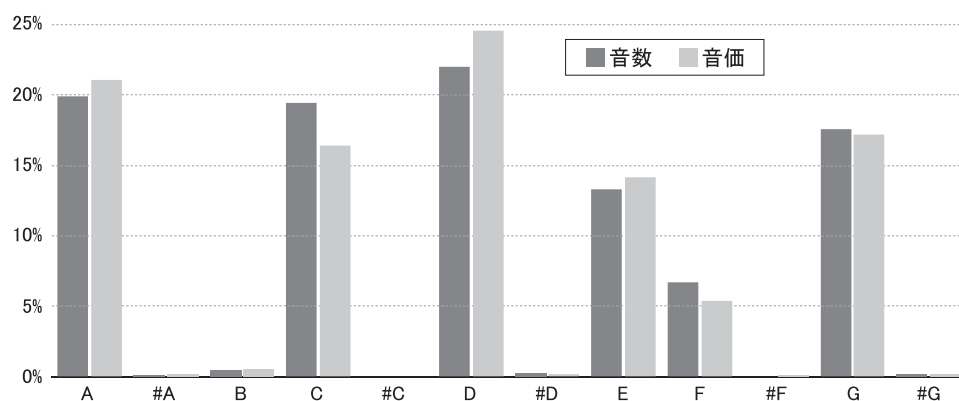


図6.11 出雲国における音高の使用傾向

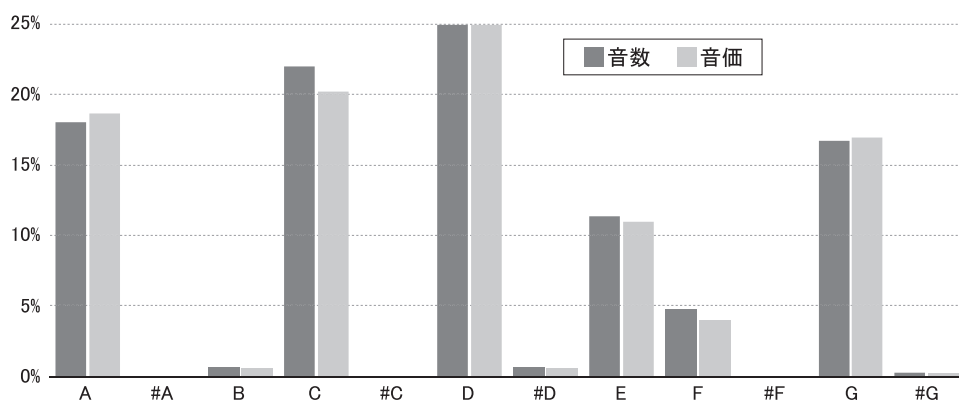


図6.12 石見国における音高の使用傾向

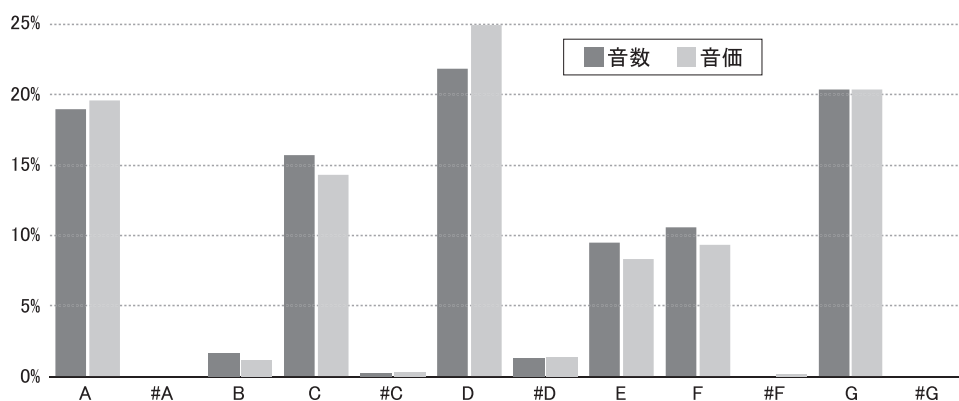


図6.13 隠岐国における音高の使用傾向

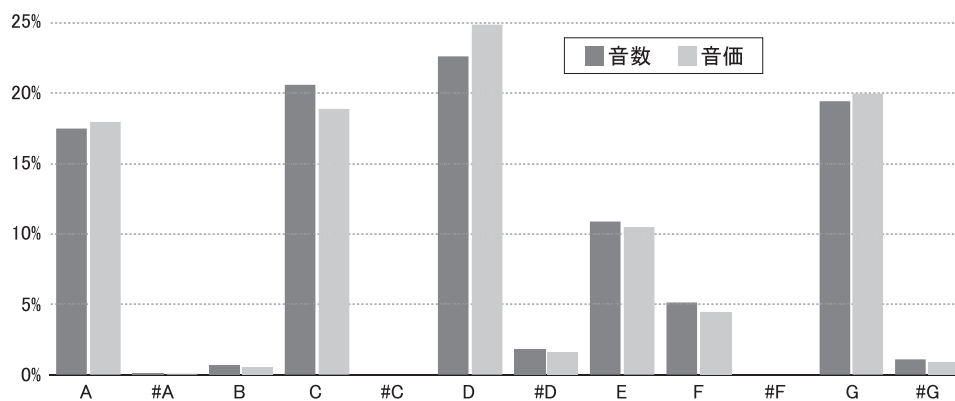


図6.14 中国地方全体における音高の使用傾向

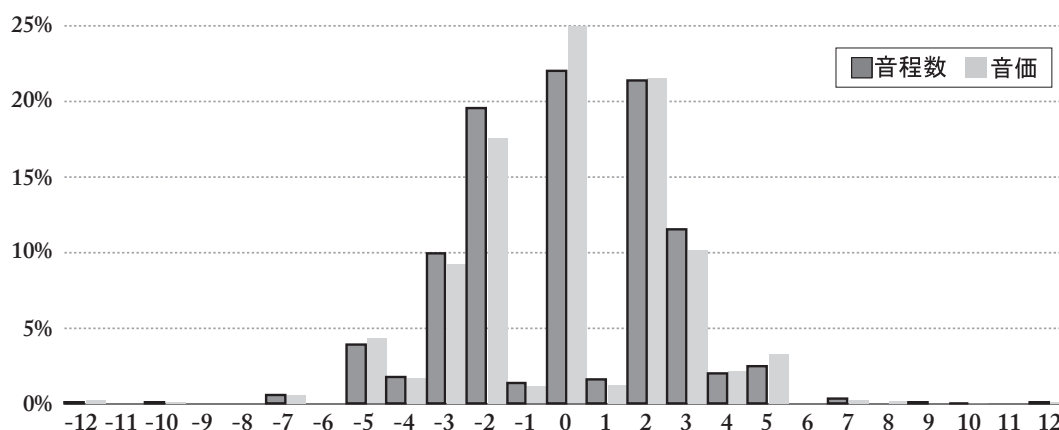


図6.15 美作国における音程の使用傾向

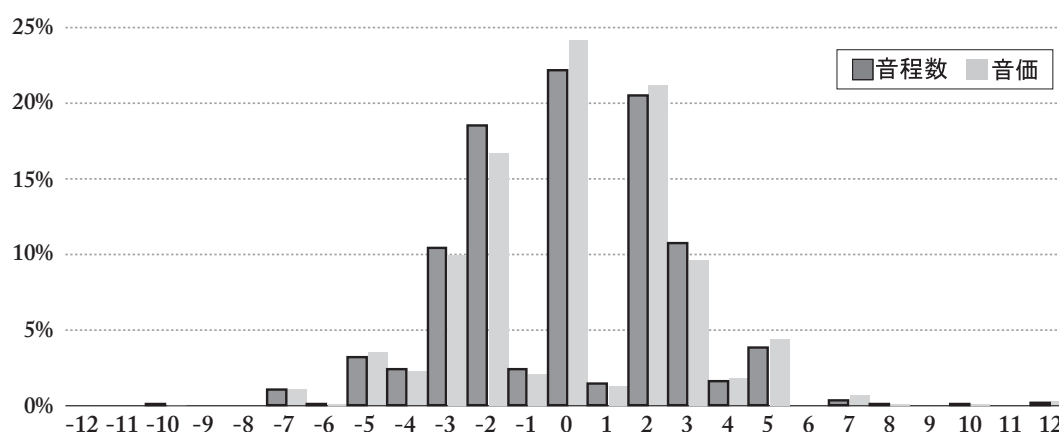


図6.16 備前国における音程の使用傾向

#### 4. 音程推移の集計結果

図6.15から図6.26は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音程推移情報を集計したヒストグラムである。また、図6.27は、中国地方の全楽曲の音程推移情報の集計結果である。

中国地方全体の音程推移の出現頻度については、同度音程推移(0)の21.58%を中心に、負の音程( $t_i < 0$ )が

39.39%、正の音程( $t_i > 0$ )が39.04%をもつことから、ほぼ左右対称の分布であることが確認できる。各音程の使用傾向を確認するために、同一音程の上行形と下行形をまとめた累積度数分布を図6.28に示す。この結果から、長2度( $\pm 2$ )39.98%、短3度( $\pm 3$ )21.66%、完全4度( $\pm 5$ )6.92%の順に使用頻度が高く、短2度( $\pm 1$ )3.49%と増4度( $\pm 6$ )0.10%を除くと、完全5度( $\pm 7$ )よりも広い音程はほとんど歌われないことが分かる。

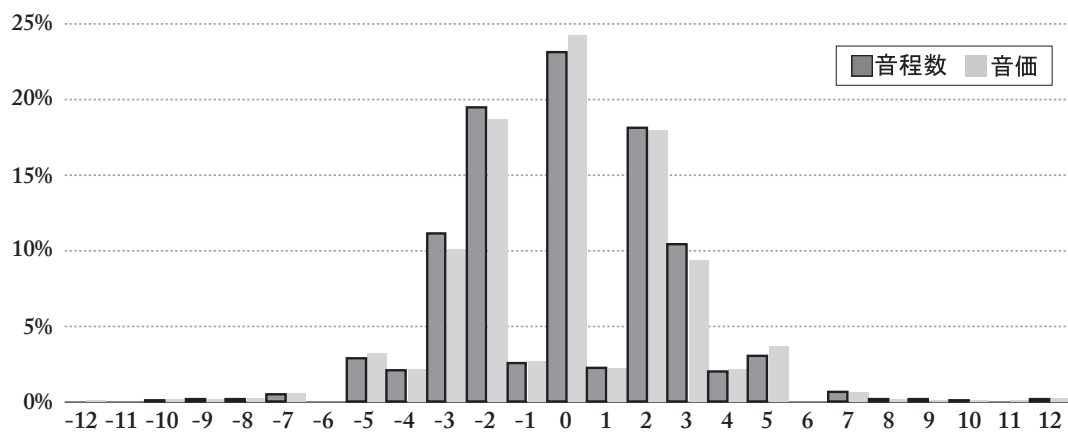


図6.17 備中国における音程の使用傾向

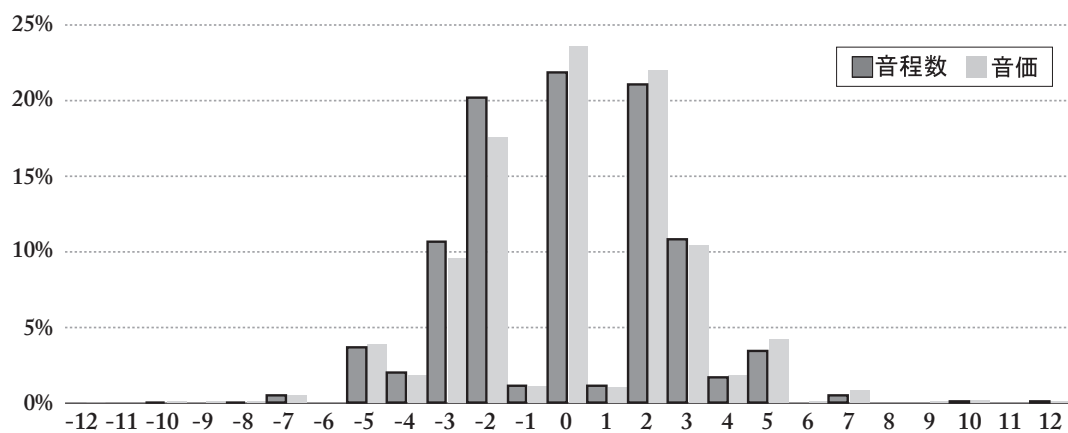


図6.18 備後国における音程の使用傾向

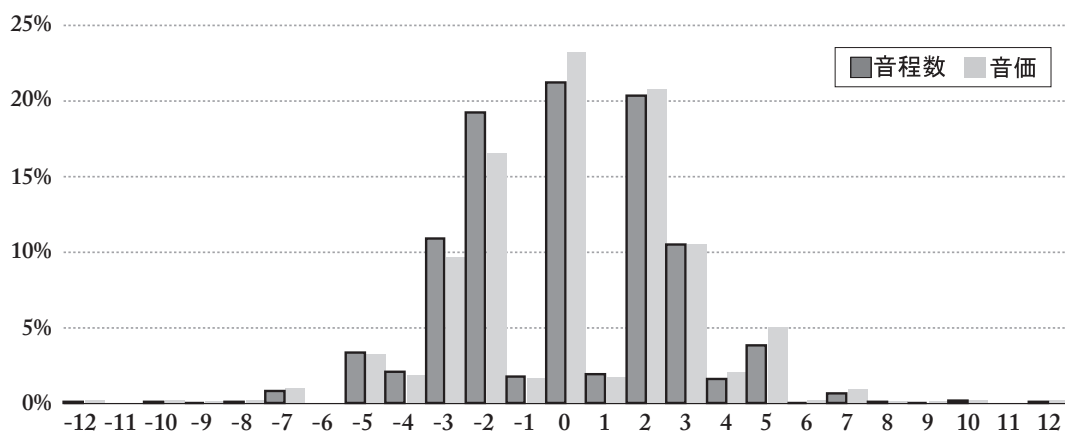


図6.19 安芸国における音程の使用傾向

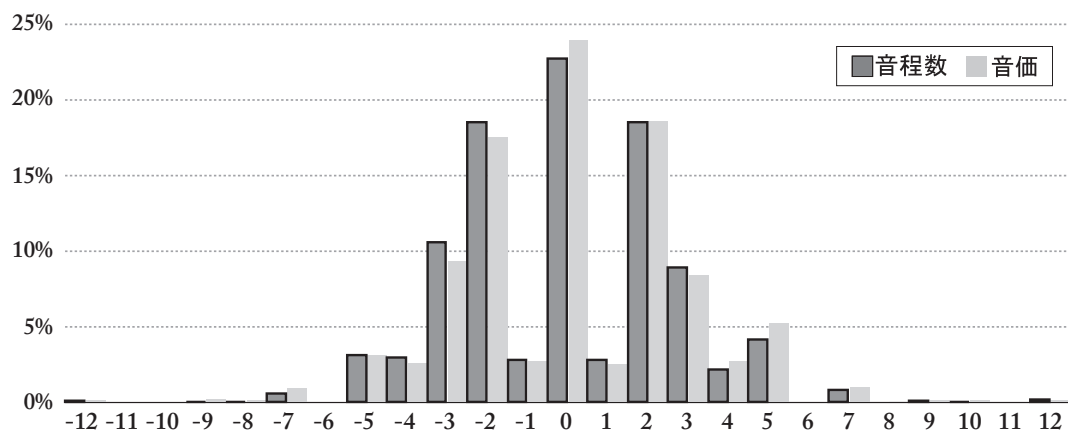


図6.20 周防国における音程の使用傾向

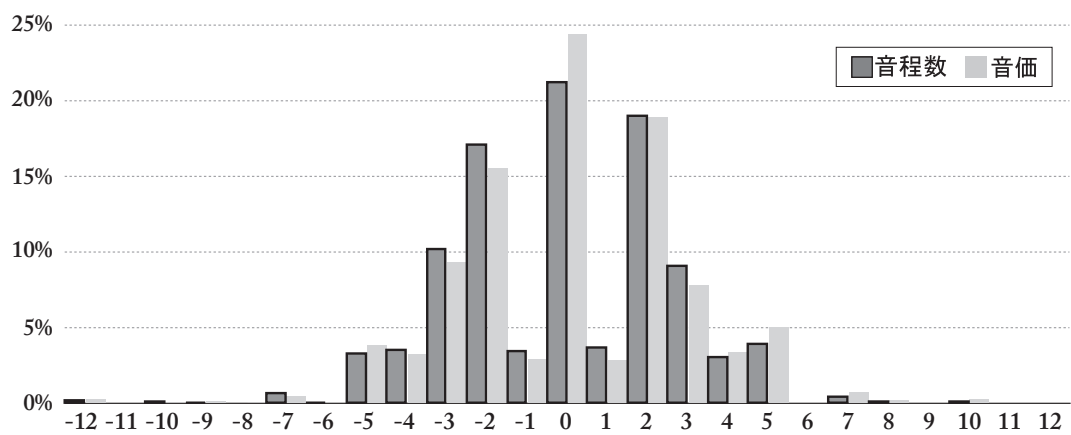


図6.21 長門国における音程の使用傾向

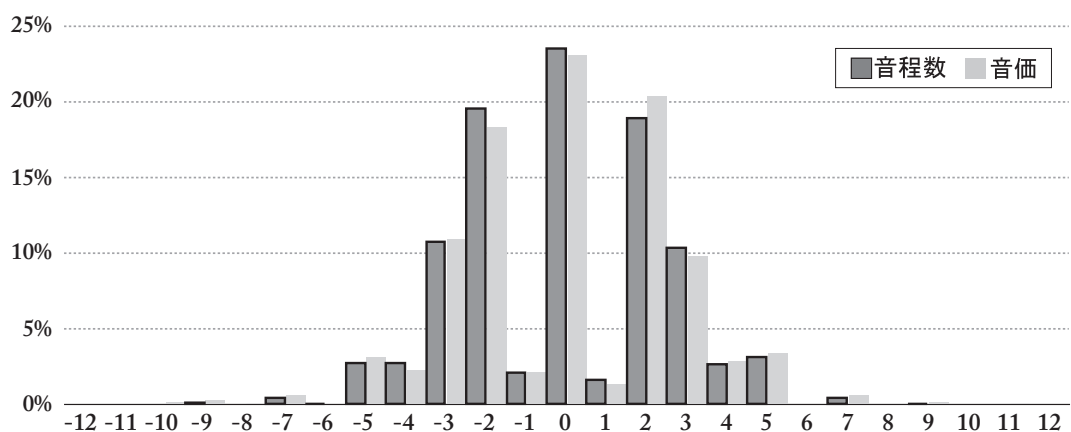


図6.22 因幡国における音程の使用傾向

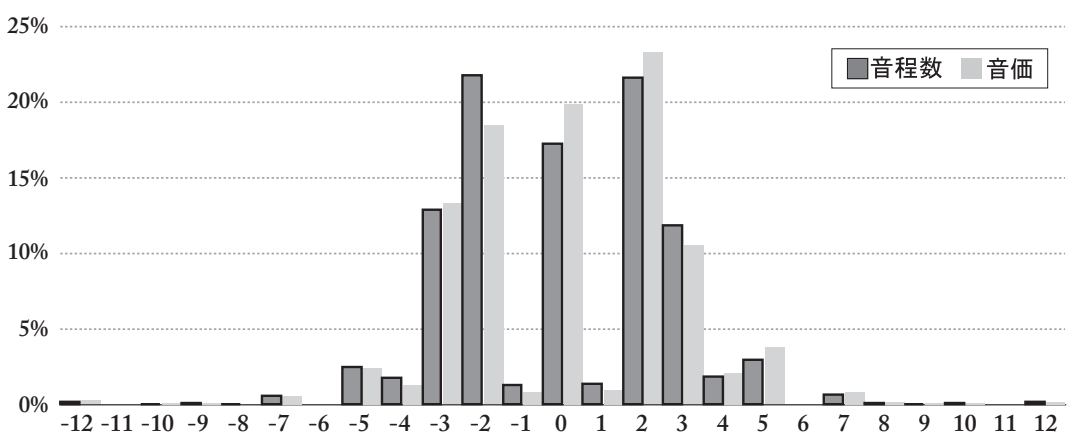


図6.23 伯耆国における音程の使用傾向

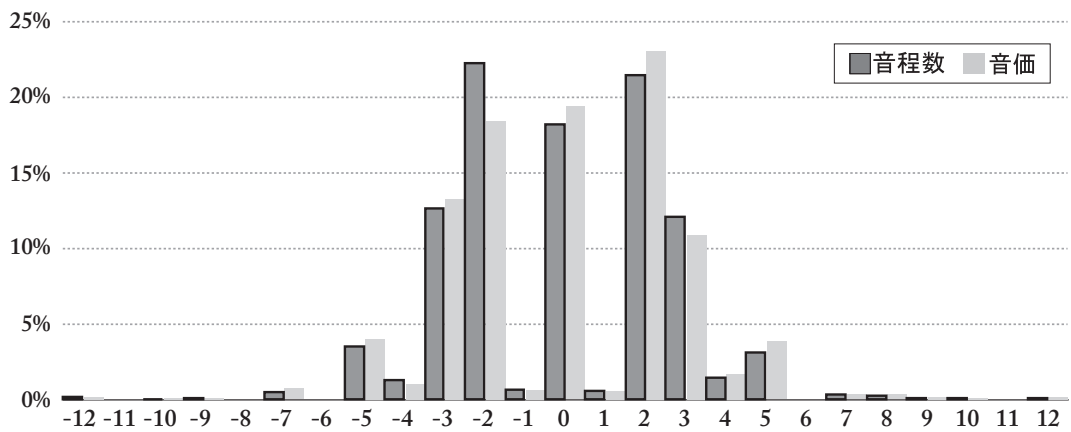


図6.24 出雲国における音程の使用傾向



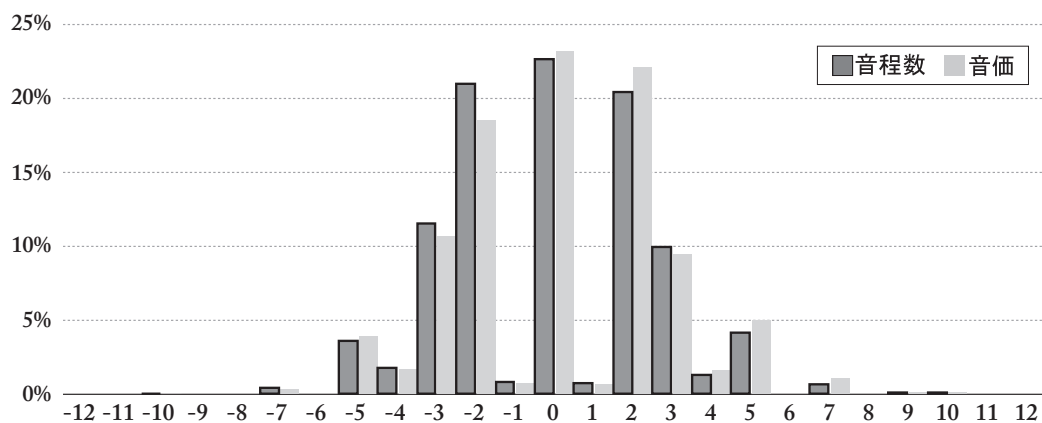


図6.25 石見国における音程の使用傾向

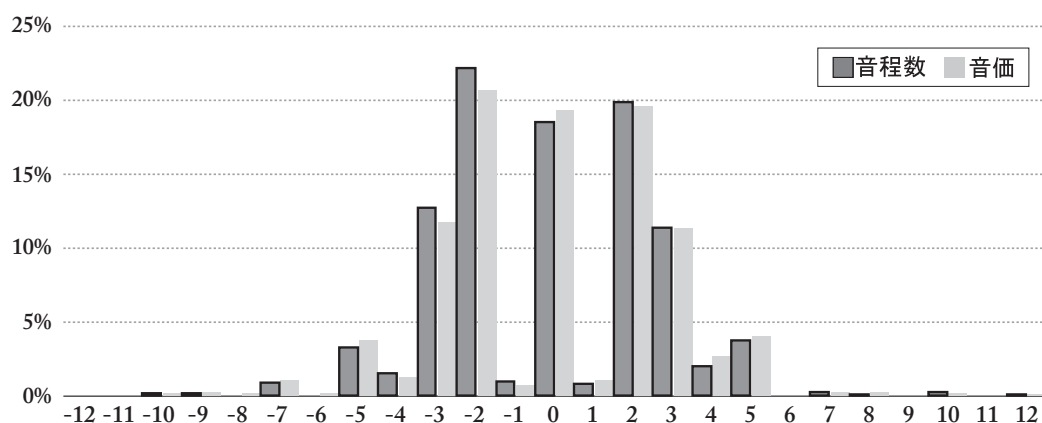


図6.26 隠岐国における音程の使用傾向

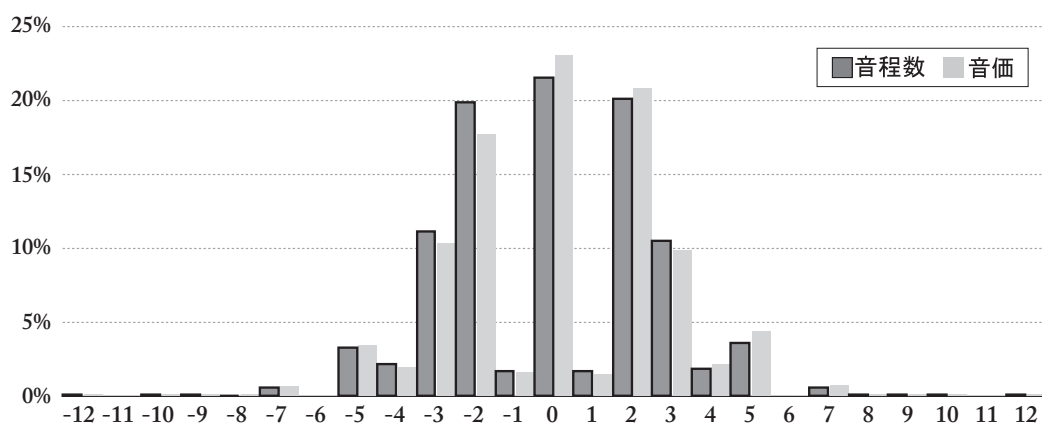


図6.27 中国地方全体における音程の使用傾向

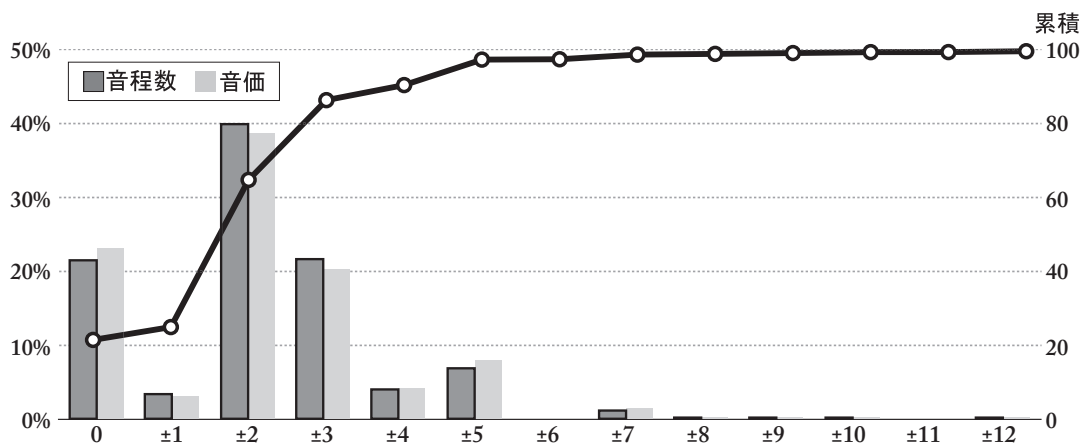


図6.28 中国地方全体における音程推移の累積度数

表6.2 中国地方の各国のテトラコルドの出現頻度

	民謡のテトラコルド						都節のテトラコルド					
	(+3, +2)	(+5, -2)	(+2, -5)	(-3, +5)	(-2, -3)	(-5, +3)	(+1, +4)	(+5, -4)	(+4, -5)	(-1, +5)	(-4, -1)	(-5, +1)
美作国	266	16	49	12	211	62	16	1	3	3	6	3
備前国	124	23	17	21	126	18	9	6	3	6	24	0
備中国	435	87	50	72	471	46	39	2	7	12	52	11
備後国	665	108	135	72	641	128	50	5	6	5	40	4
安芸国	981	179	173	149	1,030	151	85	13	19	22	95	20
周防国	416	83	58	70	485	78	60	15	23	24	84	26
長門国	204	49	36	39	210	39	60	3	5	10	64	7
因幡国	335	54	67	35	362	63	35	10	7	17	63	5
伯耆国	382	77	57	34	440	66	26	1	2	5	23	0
出雲国	352	63	73	61	371	70	6	2	0	2	9	0
石見国	552	169	151	134	661	106	12	3	0	13	21	4
隠岐国	61	24	13	13	81	7	5	0	1	0	5	1
全体	4773	932	879	712	5089	834	403	61	76	119	486	81

	律のテトラコルド						琉球のテトラコルド					
	(+2, +3)	(+5, -3)	(+3, -5)	(-2, +5)	(-3, -2)	(-5, +2)	(+4, +1)	(+5, -1)	(+1, -5)	(-4, +5)	(-1, -4)	(-5, +4)
美作国	191	23	43	13	167	42	15	7	11	0	16	3
備前国	99	13	20	12	84	20	5	1	0	0	11	0
備中国	294	50	48	35	316	47	27	3	2	5	29	0
備後国	572	90	100	72	558	126	24	2	1	4	15	3
安芸国	841	156	170	108	830	196	49	7	17	10	32	13
周防国	320	114	62	83	411	52	53	5	15	11	61	11
長門国	170	36	43	20	165	28	15	1	3	1	26	3
因幡国	337	47	43	57	377	43	27	1	5	2	28	3
伯耆国	296	48	46	20	355	41	18	1	0	1	20	0
出雲国	274	44	51	31	273	37	1	2	0	1	4	1
石見国	499	99	112	93	576	122	11	3	3	6	14	1
隠岐国	75	11	15	9	77	12	0	0	0	0	0	0
全体	3968	731	753	553	4189	766	245	33	57	41	256	38

表6.3 中国地方における音階の使用傾向

	陽類					陰類				
	C旋法	D旋法	E旋法	G旋法	A旋法	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	C旋法
美作国	1	13	7	5	13	1	0	0	0	0
備前国	3	7	3	6	6	1	0	1	0	0
備中国	4	22	10	12	20	4	0	1	0	1
備後国	6	31	14	18	28	3	0	2	1	0
安芸国	10	70	19	31	34	6	0	0	3	1
周防国	7	29	6	20	9	6	0	1	2	0
長門国	4	17	5	5	9	3	0	1	2	0
因幡国	3	15	5	13	17	4	0	0	1	0
伯耆国	6	27	10	5	16	2	0	0	0	0
出雲国	2	15	7	4	17	0	0	0	0	0
石見国	3	29	16	9	24	1	0	0	0	0
隠岐国	1	2	2	4	4	0	0	0	0	0
全体	50	277	104	132	197	31	0	6	9	2

	混合類					琉球類				
	E旋法	F旋法	A旋法	B旋法	D旋法	C旋法	E旋法	F旋法	G旋法	B旋法
美作国	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
備前国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備中国	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
備後国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安芸国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
周防国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
長門国	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
因幡国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
伯耆国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出雲国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石見国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
隠岐国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	5	0	8	0	1	0	0	0	0	0

## 5. テトラコルドの集計結果

表6.2は、中国地方全体の音程推移について、bigramを用いて集計した小泉氏の4種のテトラコルドの出現頻度である。

## 6. 音階の集計結果

表6.3は、中国地方の各国で採譜された楽曲の音階を自動判別して集計した結果である。ただし、5音に満たない楽曲については含めていないことに注意されたい。